

九州

リボーン熊本 ぼちぼち始動

今村 雄一(RKK)

コロナ収束後、休会継続を余儀なくされていた熊本も、昨年5年ぶりに活動再開に漕ぎつけました。

その、めでたく嬉しい第1回イベントを昨秋10月に開催。久々の企画で参加数に不安を抱きつつ、案内状を送付しました。

活動休止の間、会費は頂かず、会員は激減して予算厳しき折り、経費をかけず楽しめるもの。そんな都合のいいことを考えて思いついたのが、ビール工場見学でした。

サントリーの九州熊本工場が熊本市近郊にあり、送迎バスは無料。社会見学にもなり、しかも、ビールがタダで味わえるのです。かくして集まった男女10人が送迎バスに乗り込み工場へ。

広大な敷地には銀色に輝く12本もの巨大貯蔵タンクが青空にそびえ立っています。タンク1本に、缶ビール換算50万本分が貯蔵されているとのこと。熊本工場は地下天然水を使い、ビールと清涼飲料を生産する業界初のハイブリット

工場であることなど、説明を聴きながら製造現場を見学しました。

そして、真面目にお勉強した後には、できたてのビールのご褒美。3種のモルツで喉を潤し、工場内のショップで買ったお土産を手に、ほろ酔い気分で帰路についたのでした。



地下天然水・できたてのビールの味は格別！

そして、年明け1月に、2回目のイベントとして新年会を開催。13人が参加して、中華に舌鼓みをうちながら親睦を深めました。今年度は4回の事業を計画。新企画は「ローカル線に乗ろう第1弾」トロッコ列車で秋の南阿蘇へ。

会員の皆さんが楽しめる活動を企画し、会員増に繋がっていきます。



4月18日に開催した今年度の熊本総会

パークゴルフ同好会の初大会開催

萩原 博(KTS)

寒波も一段落した2月末、九州民放クラブ鹿児島島の6年度の事業(活動)計画の一つだったパークゴルフ同好会の「第1回体験会」を開催した。当日は未明に降雨があつたものの、体験会開催時間には雨もあがり、民放クラブのグループLINEでの参加呼びかけに賛同した会員6名が、2チームに分かれてスタートした。

参加者6名のうち2名は初めてのパークゴルフだったがゴルフの経験はあり、すぐにプレー、スイ

ングのコツを習得、カップインを楽しみながらのチーム戦となった。

およそ2時間をかけて、4コース、36ホールを廻りきり、3月並みの暖かさも相まって、気持ち良い汗をかいてのプレーとなった。スコアとしては、同好会会長の永池氏(KKB)がグロス112(パー132)で優勝した。

参加者たちのあいだでは、体への負荷が優しい有酸素運動のパークゴルフをシニアスポーツとして再評価する声が多数であった。

パークゴルフは、北海道が発祥のスポーツだが、最近では全国的に普及しており、いつの日か、民放クラブの全国大会が開催されることを期待したい。



パークゴルフ同好会 第1回体験会の参加者